

**「一日6回、一回に30秒ずつの学習」というのは絶対に必要な条件なのか。一回を一分にふやし、一日3回ではどうか。**

「記憶の強弱は、“関心”の深さと“反復”の回数によって決まる」と言われているように、記憶を高めるために“反復”することが非常に大切なのです。

幼児の関心を強く惹く内容を表わした漢字だったら、恐らく30秒の学習一回だけで記憶できるでしょう。しかし「容易に記憶できることは容易に忘れられる」ことでもあるのです。だから、記憶を確実なものにするためには“反復”がぜひ必要なのです。“一日6回”はそのための必要最小限を示したものと受け取り下さい。

また、学習心理学には“分散学習の効果”ということが言われています。同じ一時間の学習でも、一時間継続して学習するよりは30分ずつ2回に分けて学習した方が効率が良く、これを20分ずつ3回に分けて学習すればもっと効率が良い、という実験があるのです。「一日6回、それを一週間続ける」という学習法は、こういう実験に基づく理論を根拠に、更に一層の実験・検討を加えた結果、案出された学習法

なのです。

言葉の吟味で述べましたように、“学習”とは学んだことを反復練習することであり、反復がなかったら学習ではありません。ところが、親でも教師でも“学”ばかり求めて、“習”を軽んずる傾向があります。だから、折角の“学”が定着せず、身から離れてしまうのです。

「一日6回、それを一週間続ける」と、まずまず定着できますが、それでも、そういう学習を終えた漢字カードをカルタ遊びのようにして読んで捨わせる、など更に“反復”の機会を設けてやってほしいと思います。

反復は多ければ多いほど有効ですが、幼児の“関心”のない反復練習は無効だ、ということもよく頭の中に入れておいて下さい。